

平成30年度 学校自主研修事業（特色ある学校づくり） 実施報告書

研修先	・山形市立商業高等学校 （総合ビジネス科・経済科・国際コミュニケーション科） ・山形県立村山産業高等学校 （農業科・工業科・商業科）			
研修日程	平成30年10月30日（火）から31日（水）まで（1泊2日）			
研修者	氏名	分掌	担当教科	備考
	三浦 康史	総務部	商業	商業科主任
	五十嵐 由希	教務部	商業	商業研究部顧問
研修内容	①山形市立商業高等学校研修内容 ・進路について 優秀な生徒を育て大学進学させることで、毎年指定校の枠を増やしている。そのため山商から、国公立や有名私大に進学したいという生徒が多く入学してくる（大学等進学者は全体の約6割）。 ・学習環境と教員の意識について 生徒の学びを向上させるために、全ての普通教室にスクリーンとプロジェクタ、ノートパソコンが常設されてあった。教員はICTを活用し、対話を多く取り入れた深い学びの授業を展開していた。商業科全ての教員が近隣にある簿記の専門学校へ通い、日商2級の勉強をしている。文武両道を推進し、運動部、文化部ともに活躍している。産業調査部は、全国大会で優勝しており、様々なイベントに参加しながら地域貢献している。積極的にメディアを活用し、学校をPRしている。生徒にとって良い環境が整っており、全校生徒の出席率も99.5%と高く、1年間精勤の生徒は280名中100名を超えている。 ②山形県立村山産業高等学校研修内容 ・教科横断的な取組について 農業科、工業科、商業科の3学科あり、各学科の特性を生かしたスペシャリストの育成を図っている。学科を越えて選択できる科目があり、農業科の生徒が商業科目の簿記を学んでいた。農業科は六次化まで教えることが主流となっていることから、マーケティングや流通、販売の知識・技術まで学習している。今後、ビジネスに強い商業科と農業科の教師がT・Tで授業することも視野に入れている。			
学校づくりに 役立つ 具体案	①資格取得のメリットを示す。 資格を取得することで、大学への進学や入学金の免除など、優遇されることを中学校の先生や保護者、生徒へアピールする。 ②商業高校の活動をPRする。 些細なことでも積極的にマスメディアを活用し、商業高校の活動を多くの方に知っていただく。 ③社会（企業）と連携し教育活動を展開する。 企業の社会的責任（CSR）が社会で求められるようになり、高校と活動したい企業が増えている。積極的に企業とつながり授業を展開していく。 ④ICTを活用した授業を学校全体で行う。 「主体的で、対話的な深い学び」を実践するためには、ICTの活用は必須である。普通教室にプロジェクタやスクリーン、パソコンを常設し、誰もが活用しやすい環境を整える。			